

第44回全国救護施設研究協議大会 実践事例発表

【テーマⅡ】「地域共生社会に向けての救護施設の役割」



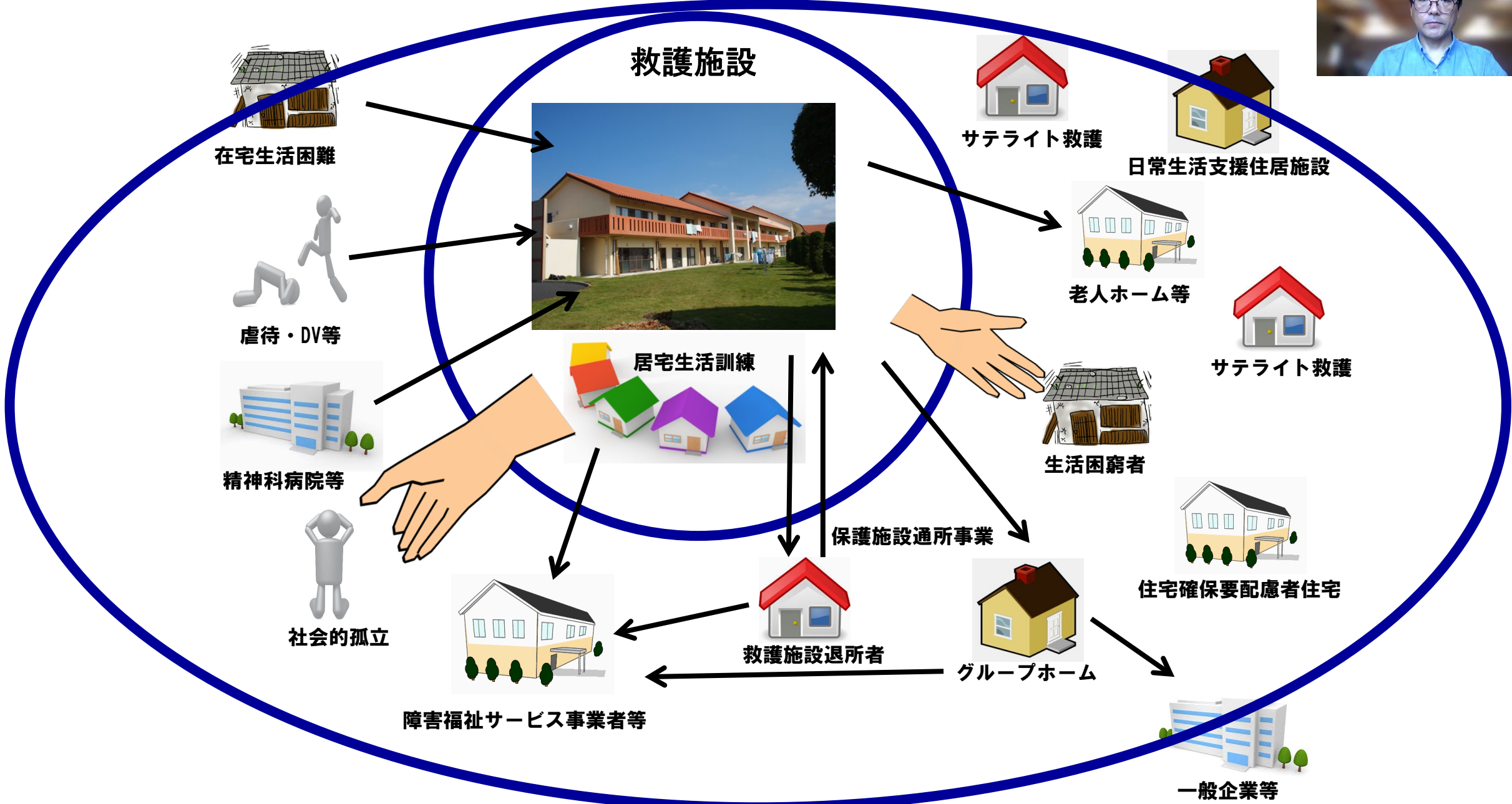
「開放・循環型セーフティネット施設」を目指して

地域共生社会に向けての救護施設の役割を果たすための取り組み



茨城県
救護施設ナザレ園
施設長 佐々木和也

開放・循環型セーフティネット施設のイメージ



開放・循環型セーフティネット施設のポイント

- 支援の**専門性**を高め、支援を**見える化**すること
- **日中活動**を充実させること
- **地域課題**に取り組むこと



→ **これからの救護施設に求められる役割**

多様な“生きづらさ”に対応する救護施設



発達障がい

知的障害
自閉症スペクトラム症
注意欠如・多動性障害
コミュニケーション障害
など

精神障がい

統合失調症
双極性障害
解離性障害
アルコール依存
社会不安症
など

身体障がい

肢体不自由
視覚障害
聴覚障害
言語障害
腎機能障害（透析）
HIV
など

パーソナリティ障がい

境界性
反社会性
自己愛性

障がいなし

高齢 住居や支援者（家族）がない 不適切な交友関係
刑余者 ひきこもりがち HSP こだわりが強い
など

“生きづらさ”を評価するための視点とその尺度



評価の視点	身体障がい	精神障がい	発達（知的）障がい	高齢	障がいなし
障害の度合い	障害者手帳 等級			認知症 スケール	障がいなし、 元気な高齢者 等の心身状況 や支援の必要 度の評価ス ケールはない。
支援の必要度	障害支援区分			要介護度	
適応行動 (適応機能)	適応行動の評価スケール vineland-II 適応行動尺度 など				

救護施設の「専門性」とは？

私たちの仕事（専門性）は利用者を
コントロールすることではなく、
「適応行動」に働きかけることだ！



適応行動とそれを計る尺度

— 「Vineland- II 適応行動尺度」 —



○適応行動とは？

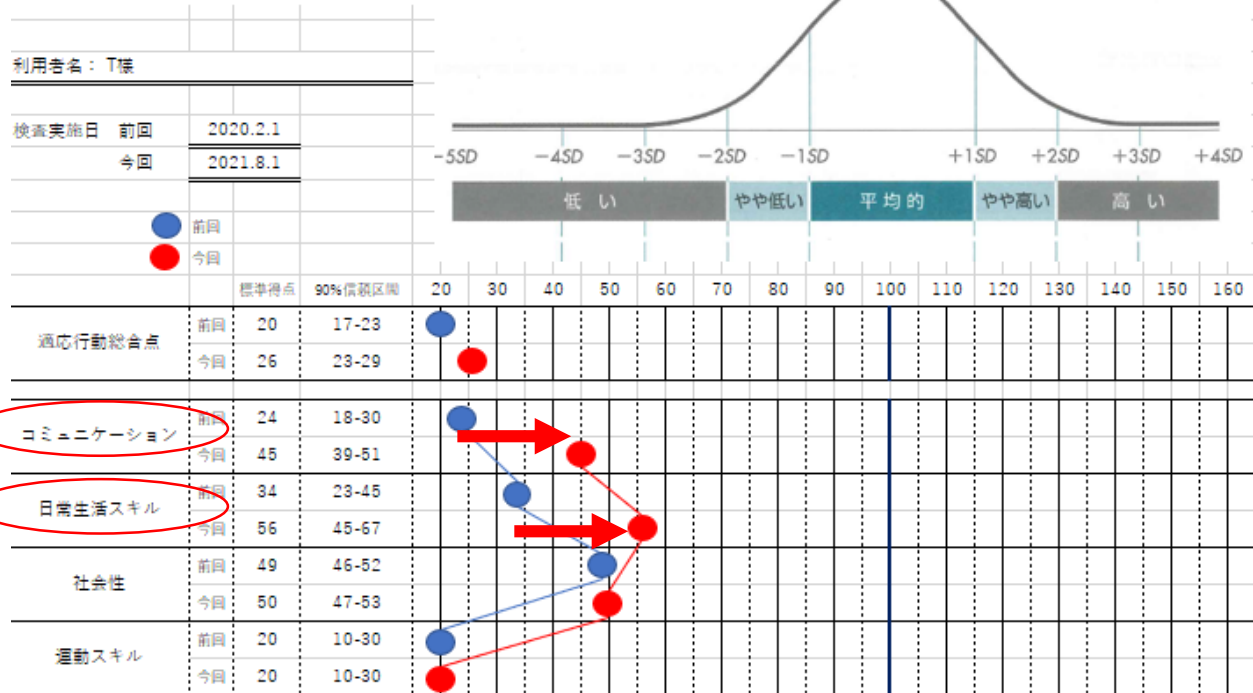
- 日常生活を安全かつ自立的に送るために必要となる**年齢相応**のスキル
- 食事や身だしなみ、掃除、お金の管理、仕事、友人関係、社会的スキルなど
- 適応行動は**環境の影響**や**支援効果**などによって**変わる**（向上または低下する）。

○適応行動を計る標準的ツール — 「Vineland- II 適応行動尺度」

- 知的障がい者やASDの検査の為に使用しており、日常生活への適応に必要な適応行動の代表的なアセスメントツールとして、国際的に広く利用されている。
（0歳～92歳まで使用可能）
- 4領域に大きく分け、下位領域として更に11領域に分かれている。
- 適応行動の評価は、**行動そのもの（しているか）**を評価するものであり、**個人の可能性（潜在能力）**を評価しない

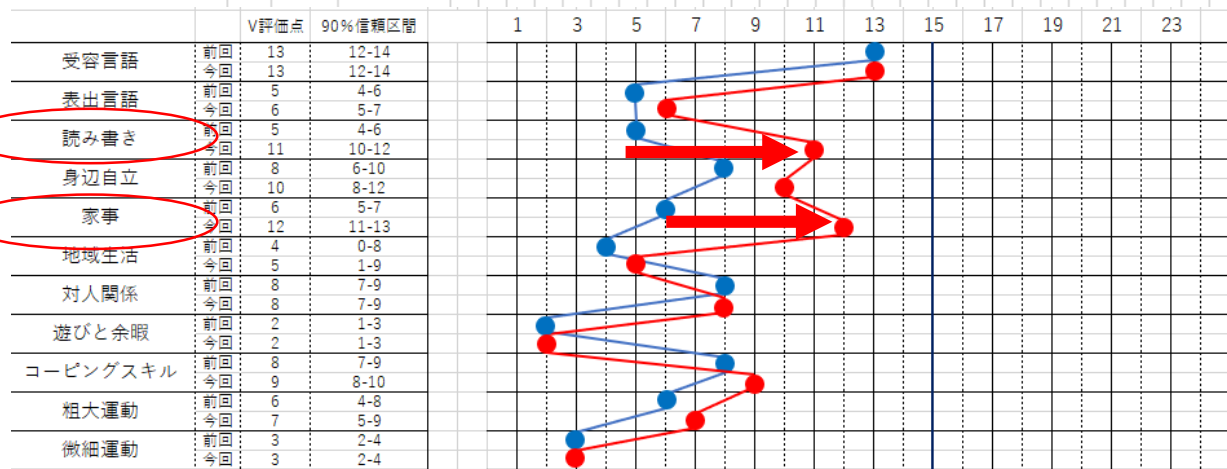
「vineland-II 適応行動尺度」で利用者のアセスメントを実施した

Vineland-II 得点プロフィール（領域得点）2期比較表



居宅生活訓練実施前後の比較

- 日常生活スキル領域で22点のアップ
→食事や買い物、掃除等の家事機会が増えたことにより「家事」の領域で点数が上がった。
- コミュニケーション領域で21点のアップ
→さまざまな手続き書類等を自分で書くようになったことで、「読み書き」の領域で点数が上がった。



ナザレ園版適応行動アセスメントとプログラムのイメージ

ナザレ園版適応行動アセスメント

適応行動向上プログラム

4 領域

下位領域

コミュニケーション
日常生活スキル
社会性
運動スキル

身辺自立
家事
地域生活

評価項目

歯磨き

衣服

排せつ

食事摂取

洗身・洗髪

衛生管理

・
・
・

- ・ 評価項目の内容については「適応行動プログラム会議」で検討し決定する。。
- ・ 評価項目ごとに点数化し、その点数に基づいてプログラム実施レベルと内容を決める。
- ・ アセスメントとプログラムを直結する。

レベル	プログラム実施内容
1
2
3
4

Vineland-II 適応行動尺度を基にして

- ・ 評価項目をより具体的なもの
- ・ 業務実態に合わせる
- ・ 簡易的に数値化できるものに作り上げる

Vineland-II 適応行動尺度

評価項目は、アセスメントとプログラムとの橋渡しをするイメージ

*プログラムの方法やアプローチについては、障がい特性等によって変えていく必要がある。

ナザレ園版適応行動アセスメントの試験運用版



ナザレ園版適応行動アセスメント（検討段階案）

領域	下位領域	小項目	
1	コミュニケーション	1 受容言語	1 聞くスキル
		2 表出言語	2 話すスキル
		3 読み書き	3 読むスキル 4 書くスキル
2	1 身辺自立	5 飲食	5 飲食
		6 排泄	6 排泄
		7 衣服	7 衣服
		8 入浴	8 入浴
		9 身だしなみ	9 身だしなみ
		10 日常の健康管理	10 日常の健康管理
		11 病院受診、緊急時の対応	11 病院受診、緊急時の対応
		12 服薬管理	12 服薬管理
		13 調理器具の扱い	13 調理器具の扱い
		14 食事の準備と片付け	14 食事の準備と片付け
	2 家事	15 清掃・整理	15 清掃・整理
		16 日用品の準備	16 日用品の準備
		17 洗濯	17 洗濯
		18 洗濯機・洗濯機乾燥機等の取り扱い	18 洗濯機・洗濯機乾燥機等の取り扱い
		19 掃除機等の取り扱い	19 掃除機等の取り扱い
		20 洗濯物・掃除機等の取り扱い	20 洗濯物・掃除機等の取り扱い
		21 必要な手拭き等の実行	21 必要な手拭き等の実行
3 社会性	1 対人関係	22 日話の理解	22 日話の理解
		23 社会的規範	23 社会的規範
		24 社会的規範の理解	24 社会的規範の理解
		25 社会的規範の表現	25 社会的規範の表現
		26 金銭管理	26 金銭管理
	2 コーピングスキル	27 車椅子の操作	27 車椅子の操作
		28 歩行	28 歩行
		29 歩行の調整	29 歩行の調整
		30 会話・コミュニケーション	30 会話・コミュニケーション
		31 友達づまい	31 友達づまい
2	32 場に合わせてふるまい	32 場に合わせてふるまい	
	33 感謝と謝罪の意思表示	33 感謝と謝罪の意思表示	
	34 ルールや予定に合わせて行動	34 ルールや予定に合わせて行動	
	35 社会的な危機の認識	35 社会的な危機の認識	
	36 感情や行動のコントロール	36 感情や行動のコントロール	
	37 他者や自己の秘密の保持	37 他者や自己の秘密の保持	
4	運動スキル	1 粗大運動	38 移動能力
		2 微細運動	39 道具の扱い

評価方法の考え方

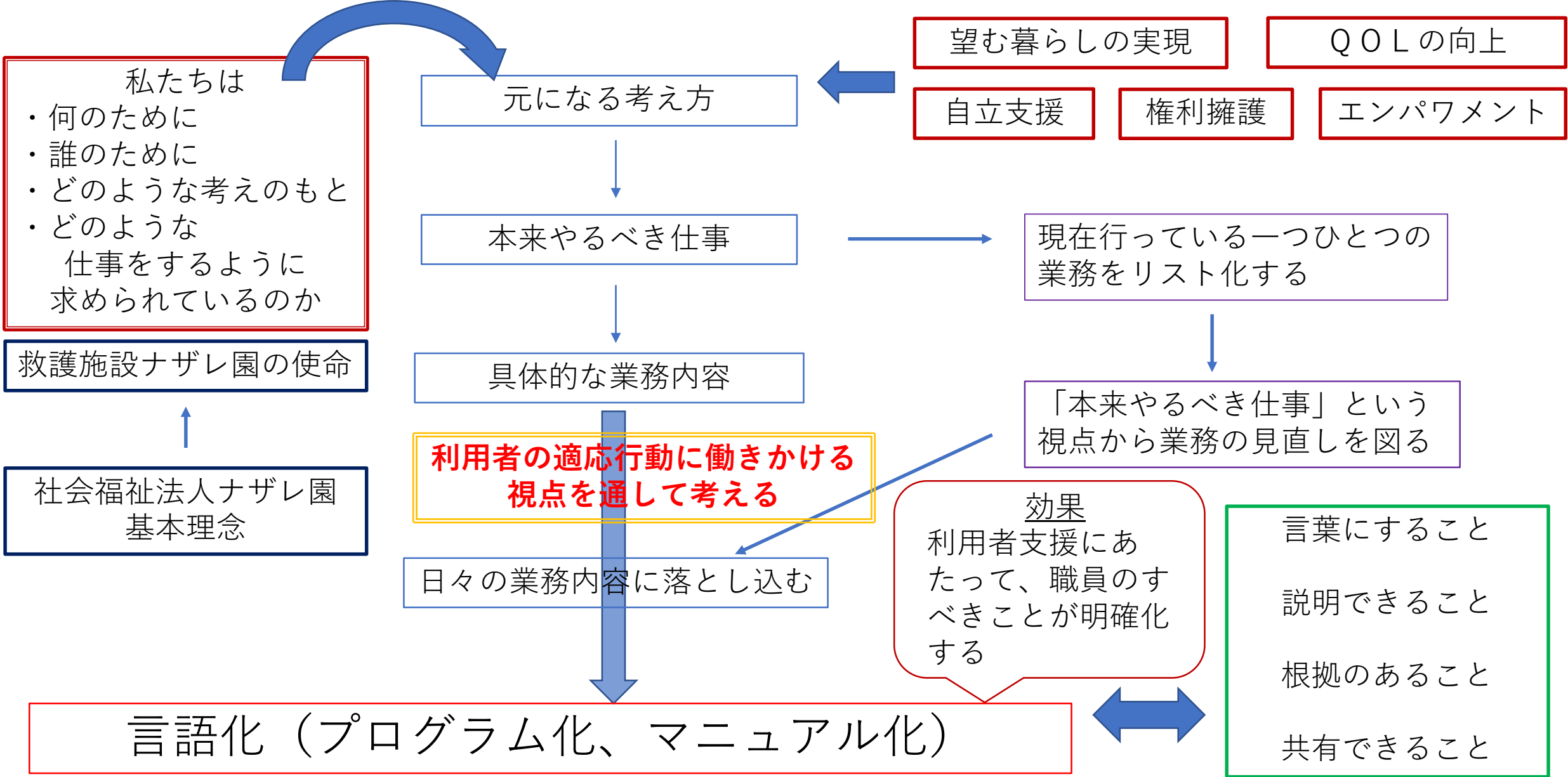
- ・小項目ごとに、「社会人としてあるべき状態像」を想定する。
- ・「社会人としてあるべき状態像」とは曖昧な表現であるが、一般的に「自立した人」がとっている適応行動と考える。
- ・上記の状態を小項目ごとに文章化したものが「評価基準」となる。
- ・「評価基準」の文章は、「他の力を借りず自分で」「通常一般的に適切に」行える「自立した人」としての状態像を考える。
- ・評価基準はなるべく具体的な場面が分かるものにするのが望ましいが、現実的な場面を列挙しないと一般的な状態像を表現することが困難である。
- ・「評価基準」は、適応行動向上プログラムの実施に必要となるべき項目となる。
- ・「評価基準」は、適応行動向上プログラムの実施に必要となるべき項目となる。
- ・「評価基準」は、適応行動向上プログラムの実施に必要となるべき項目となる。

評価基準（案）
「今後台風が来るので建物に被害がないように準備してください」という指示を理解して適切に実行できる。
自分の正しい立ちや寝姿勢を時系列（SWI Hを用いて）で話すことが出来る
授与する文書や電化製品のマニュアル等を読んで理解できる
手続に必要な書類を完成させられ、今日の出来事や自分の気持ちを手紙にすることが出来る。
箸やスプーンを使い、食べこぼしなく、安全に一人で食事ができる
トイレで清潔に一人で排せつすることができる
気温や状況に合わせて衣服を選び自分で着ることが出来る
適切な温度で入浴し、自分で身体を洗い、髪を乾かし、身体を拭くことができる
他者に会うために適切な身だしなみを整えることができる
自分の体調に合わせて十分な睡眠、適度な運動、バランスの良い食事などを考え実行している。
自分の病状や体調の変化に合わせて病院受診の必要性を理解し適切に実行している。
服用法どおりに薬を飲み、薬を切らさないように病院へ行くことが出来る
調理器具（包丁、フライパン、ガスレンジ、電子レンジなど）を使って安全に調理ができる。
毎日の献立を考えて食事の支度と後片付けができる（包丁等使用の調理の有無は問わない）
自分が使用する住居スペースの清掃と整理整頓をし、ゴミや不用品を適切に処分している。
日用品や消耗品のなくなる機会が分かり補充している。
必要に応じて衣類や寝具を洗濯し交換している。
電車や車での交通機関やバスなどの公共交通機関の取り扱いは出来る。
スマートフォンやタブレット端末等の操作が出来る。かけることができる
ボールペンや鉛筆の正しい握り方を習得し、書くことができる。目印を適切に相手に確認したりする。
工作上必要な手紙や封筒の書き方、封筒の貼付、住所の記載等）や各種文書の印刷を把握し実行している。
過去5年間程度の生活の振り返りをしており、1年程度の振り返りもでき、そのためのやるべきことを理解している。
週に1日以上、仕事（アルバイト、他施設での作業）を行っている。
3,000円以内、2日分の家事と必要な日用品（トイレットペーパーや洗剤等）を総額内で購入出来る。
10,000円以内で1週間分（食費や水道代、電気代、通信費、雑費等）が出来る。必要に応じて貯蓄ができる。
現金、自己名義の銀行口座の印鑑やカード、通帳、保証番号を自分で管理している。
公共交通機関やタクシーの料金の目安をつけ、公共交通機関を使って外出し目的地付近まで帰ってくる。
自分の感情を理解し、他者と協力的な関係を築くことが出来る（支那/被災地、旅行/使われる関係等ではなく）
自分の意思と適切な表現で自分の感情を表現してもよいことを理解し実行できる。
相手の興味・関心のある話題から話を始めたり、イベント等で役割を分担することに協力できる。
定期的に会ったり話したりする友人があり、適切な距離感で付き合っている。
自分がおかれている場面を客観的に理解し、その場に合わせてふるまいが出来る。
「ありがとう」や「すみません」などの感謝と謝罪の言葉を適切な時期に素直に言える。
前から分かっている予定や計画に合わせて事前に準備しそれにそって行動する
騙されたり自らが傷つくような状況を中断したり、そこから逃げたりできる
日課や予定が変更になったり、自分の思い通りにならなかった時でも、気持ちを保てる
自身や他者の個人情報等をむやみに話したり聞いたりせず、秘密や内情などを黙っていられる。
転ぶことなく安全に歩いたり走ったり自転車に乗ったりすることができる
複雑な図形（丸や星形）をハサミで切ったり、新聞紙の裏を紐でまきつく縛ることができる。

将来の目標は、これをういて
福祉事務所のケースワーカー
機能の一翼を担うこと

「適応行動」視点で支援を「見える化」する

- 適応行動に働きかける視点で業務を再構築する -



私たちは
・何のために
・誰のために
・どのような考えのもと
・どのような
仕事をするように
求められているのか

救護施設ナザレ園の使命

社会福祉法人ナザレ園
基本理念

元になる考え方

本来やるべき仕事

具体的な業務内容

**利用者の適応行動に働きかける
視点を通して考える**

日々の業務内容に落とし込む

言語化（プログラム化、マニュアル化）

望む暮らしの実現

QOLの向上

自立支援

権利擁護

エンパワメント

現在行っている一つひとつの
業務をリスト化する

「本来やるべき仕事」という
視点から業務の見直しを図る

効果
利用者支援にあ
たって、職員のす
べきことが明確化
する

言葉にすること
説明できること
根拠のあること
共有できること

社会福祉法人の強みを活かした地域課題の取り組み



「住まい」・「食事」・「相談」・「就労支援」機能を地域に開放する

総合相談窓口の設置

生活サポート
事業

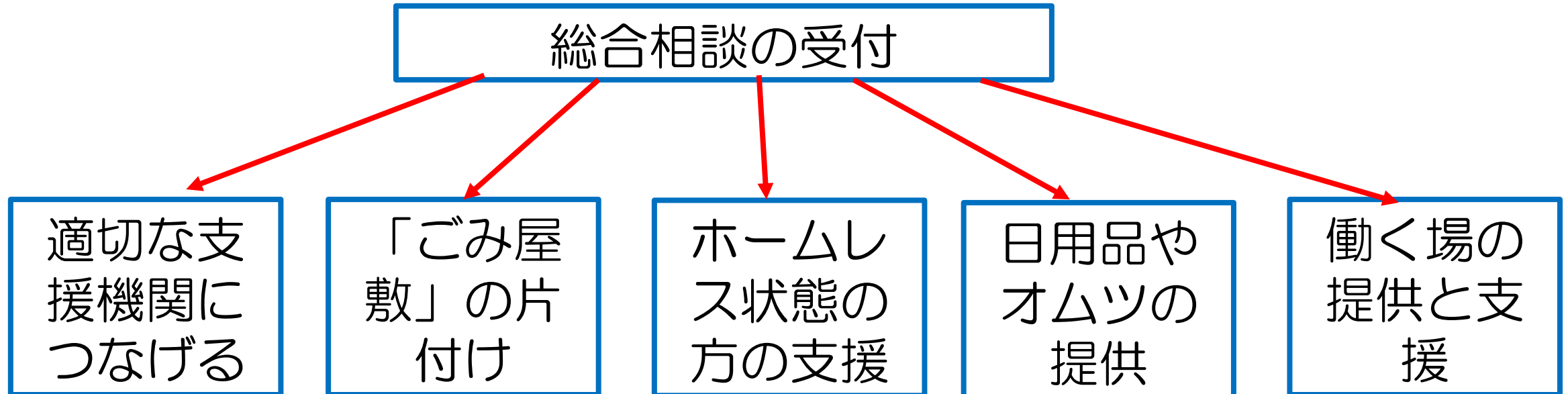
誰もが安心して働ける場の提供

ユニバーサル就労
支援事業所

地域課題の解決 — 生活サポート事業



- 平成26年4月1日事業開始 *法人独自事業
- 各事業所にコミュニティ・ソーシャルワーカー（CSW）を兼務で配置（20名）



地域課題の解決 — ナザレ園ユニバーサル就労支援事業

- 平成29年3月31日事業開始 定員20名
生活困窮者就労訓練事業として茨城県の認定を受ける
- おもな就労訓練内容
施設内清掃、除草、介護補助、調理補助、農作業、ランドリー作業等
- 現在までの実績
相談：29件
訓練実施：23名
訓練中止：9名 一般就労：2名 障害者就労へ移行：1名
現在訓練中：11名
(雇用型：5名 非雇用型：6名)





地域との協働 — ひまわり油プロジェクト



那珂市商工会議所からの委託

那珂市のひまわり畑



ナザレ園のひまわり畑から収穫

ナザレ園のひまわり畑



家庭でひまわりを育てている個人から種を仕入れる

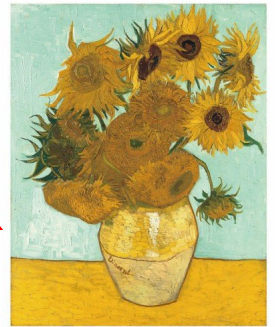
各家庭のひまわり

ナザレ園ひまわり油プロジェクト

救護施設入所者、障がい者就労利用者、ユニバーサル就労利用者、地域の働きづらさを抱えている方、地域の学校や住民等との協働作業によってひまわり油を製造し、那珂市ブランドを高めることに貢献し、ナザレ園独自の商品も作る。バイオ燃料による農機具の稼働も視野に入れる。



那珂市ブランドのひまわり油



ナザレ園ブランドのひまわり油

クラウドファンディングによる資金調達や栽培・収穫・搾油体験の提供による事業継続

ブランドイメージを高める販促活動（例）文化デザイナー学院等とのコラボによる販促イベントや販路開拓の活動を行う



まとめ

- これまでも、そしてこれからも救護施設に求められる役割を果たすためのキーワードは、「専門性の向上」「支援の見える化」「日中活動の充実」「地域課題への取り組み」だと思います。
- ナザレ園としては、利用者の「適応行動」に焦点をあてた支援を充実させることが、救護施設の専門性を高め支援を見える化することにつながることでだと確信しています。
- そのうえで、入所型施設の強みを活かして、積極的に地域課題に取り組み、施設機能を地域に開放していきたいと考えています。
- それが、地域共生社会に向けた救護施設の役割だと思います。





最後までお聞きいただきありがとうございました

